

(別紙2)

平成31年度学業報告(実績)

(令和2年3月現在)

奨学金支給者	今年度における研究活動等
オウ エン (33回生)	体細胞では、適切なDNA損傷応答がないと、不完全な遺伝情報を持つ細胞が生じ、それらの細胞の死滅、生存や増殖促進する変異が蓄積して「ガン」を引き起こすためDNA修復を行う損傷応答について研究を行った
セキ エイ (33回生)	九鬼周造の情緒論を哲学的意義、形而上意義、情緒の意味、分類、適応する方法などの面から考察研究し、比較思想学会で発表した。
タテフ ババヤン (33回生)	卒業制作をメインに活動。日本の伝統的な芸術や技法を学ぶためにワークショップや短期コースに参加し、日本七宝作家協会展へ作品展示。JTO デザインコンテストではセレナ賞を受賞した。
ヤン ジュレン (33回生)	日本亜熱帯島の人口帯水層における灌漑用水の安定供給と地下水管理を行うために種々のデータを収集し研究を行った。
マック インシャンイサ (34回生)	フタホシココロギの組織のステロール組成を分析し、雑食性昆虫のステロールの代謝メカニズムを調査。解明を目指し研究を行った。
コ ゴキン (34回生)	ひとつひとつの問題点を提起しながら、過去の情報や日々の株価情報を反映させ、将来の株式市場の動きを予測できる投資予測アプリを研究した。
チョウ ホウ (34回生)	移動体無線通信の多様化による複数の周波数帯に対応できる無線機器の需要拡大に応えるためにマルチバンド帯域通貨フィルタの研究開発を行った。
リク キョウ (34回生)	ジアシルグリセロールキナーゼが産出するホスファチジン酸を介してセロトニントランスポーターのコビキチン化を亢進し、そのたんぱく質量の安定性制御における分子メカニズムを解明するための研究を行っている。
アーイェンシュエン アンドレア (34回生)	授業と共に様々なコンテストに参加、ブラウス、スカート、スーツ等を制作。文化祭のためのプロジェクトでは、技術部門コンテストにおいて、トワリスト賞を受賞した。
シュウ コウ (34回生)	日中母語場面の雑談における発話の重なりを、上下関係のない参加者を対象として、実態や異同について研究した。
リージアユン ライアン (34回生)	(株)OELにてインターシップに参加。社会実装として、ドローンを用いて建物のひび割れを検出するシステムを使い、建物の点検を行った。学校で学んだ技術を役立てることができた。